

スギラン *Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

樹木に着生する常緑性シダ。茎は3回前後枝分かれをし、長さ10~30 cmに達する。一見姿はトウゲシバに似るが、葉は線状披針形から狭披針形で緑色から深緑色、革質で全縁、長さはやや不揃いで、先端は鋭頭。上部の葉は狭く、やや短くなる。胞子嚢は枝端近くにつくが、胞子嚢穂というまとまりはない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、インドに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では全県に点在分布するが、伊豆(天城山)、東部(富士山、愛鷹山)に多い。

3. 生育環境

山林の森林帯、樹木に着生するのがふつうだが、稀には岩上に着生することもある。

4. 生育状況

全県の山林中に生育するが、産地も限られ、個体数もごく少ない。強風により着生木が倒れたり、木は倒れなくてもスギランそのものが吹き落とされることも多い。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採(11)や古木の枯死など自然遷移(54)による減少が脅威である。園芸採集(41)による減少も著しい。

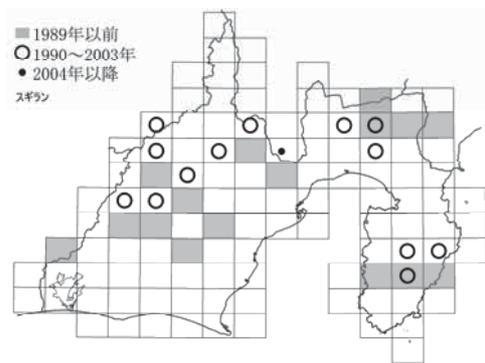
6. 保護対策

古木に着生することが多く、山林中の樹木伐採を防ぐ対策が必要である。

(細倉哲穂)



浜松市 2001年11月11日 宮崎一夫



ミズニラ *Isoetes japonica* A. Braun

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ミズニラ科 Isoetaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

水生の夏緑性シダ。塊茎は2~3 cm、底は浅く3分する。葉は束生し、長さ10~30 cm。水深などの条件により変異が大きく、4稜のある円柱状で先端は次第に細くなる。基部は広がって卵状となり、胞子嚢をつける。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国に分布する。県内では各地に分布する。

3. 生育環境

ため池、池沼、湿地、水田などに沈水あるいは抽水して生育する。

4. 生育状況

産地は限られている。生育環境の特殊性から減少傾向が著しい。

5. 減少の主要因と脅威

池沼・湿地の開発(15)、ため池の改修(12)、水田の乾田化(15)や農薬使用による水質悪化(32)などが要因である。

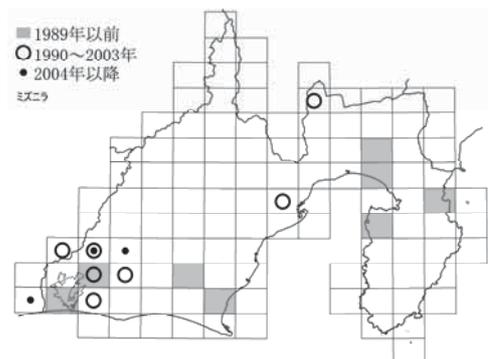
6. 保護対策

生育する水湿地の保護と、水田では現在の耕作形態維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2016年7月24日 宮崎一夫



ヒメハナワラビ *Botrychium lunaria* (L.) Sw.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。根茎は細い円柱状。葉は共通柄の先で栄養葉と孢子葉に分かれている。栄養葉は短柄があり、単羽状複葉で羽片は扇形、3~5対あって頂羽片を除いてほぼ同形。孢子葉は総状または円錐状で3回羽状、孢子嚢を密につける。

2. 分布

国外では北半球(温帯周極地域)、南半球(オセアニアの高山)に、国内では北海道、本州(主に中部以北)に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯及び高山帯の、日のよく当たる岩礫地や草原に生育している。

4. 生育状況

産地も限られ、個体数もきわめて少ない。生育環境の悪化により、著しく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ(51)、植生遷移(54)などが減少の主要因である。園芸採取(41)も考えられる。

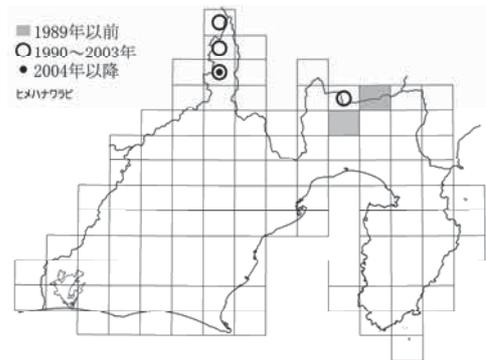
6. 保護対策

登山道の指定により、登山者の踏みつけや園芸採取を防ぎ、生育環境に影響を与えないような対策が必要である。

(細倉哲穂)



静岡市 2018年8月25日 湯浅保雄



マツバラン *Psilotum nudum* (L.) P. Beauv.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

マツバラン科 Psilotaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

小~中型の常緑性シダ。長さは30cm前後に達する。暖地で樹上着生だが、北方では岩上着生が多く、時に地上にも見る。茎は地上茎、地下茎に分かれ、地下茎に根はなく仮根がある。地上茎は又状に数回分岐する。葉はなく、茎に鱗片状の小突起がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国から世界の亜熱帯~熱帯地域に広く、国内では本州(宮城県、石川県以南、以西)、四国、九州、小笠原、沖縄に分布する。県内では各地に分布する。

3. 生育環境

暖地の低山地、山麓の樹上や岩上に着生、時には崖地、地上に生育することもある。

4. 生育状況

県内に自生地が点在するが、それぞれの生育地での個体数は少なく、個体の大きさも小さいものが多い。市街地周辺の石垣などに見るものは、多くは栽培品からの逸出である。

5. 減少の主要因と脅威

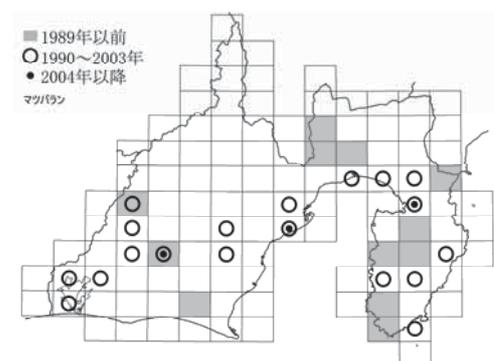
樹木の伐採などの山林の開発行為(11)で激減している。江戸時代の昔から、観葉植物として栽培されており、今日もなお園芸用に採取されること(41)が脅威である。

6. 保護対策

生育地では、山林の伐採や開発による、生育地の環境破壊などの影響を生じさせない対策が必要である。(細倉哲穂)



静岡市 2018年1月2日 青島一樹



シロヤマゼンマイ *Osmunda banksiifolia* (C. Presl) Kuhn

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ゼンマイ科 Osmundaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉長は1.5 m前後に達する。葉柄は長く、鱗片はつかない。葉は革質で表面に光沢がある。葉身は単羽状で羽片は葉軸に45°ほどの狭い角度につき、基部に関節がある。下部の羽片に孢子嚢群がついて、不完全な二形性を呈する。孢子嚢群のついた羽片は褐色で、短く小さい。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、アジアの熱帯に、国内では本州（静岡県、和歌山県）、四国、九州、小笠原、琉球に分布する。県内では伊豆（旧賀茂村）と西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下の林床や林縁、溪流近くの湿った崖地などに生育する。

4. 生育状況

産地が局限され、生育地での個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

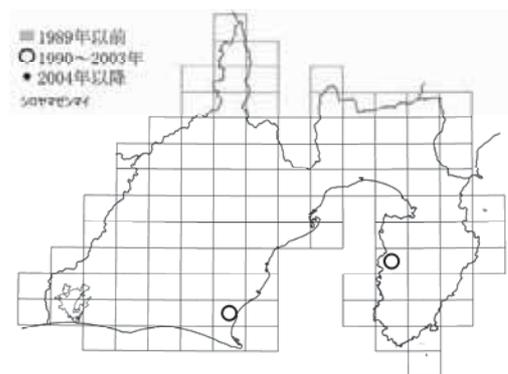
林道の整備(24)、河川の改修や開発(13)、山林の伐採(11)などによる生育環境の悪化が心配される。

6. 保護対策

河川の改修、山林の伐採の際、留意する。緊急に保護の方策を講ずる必要がある。(細倉哲穂)



牧之原市 2003年1月12日 杉野孝雄



サンショウモ *Salvinia natans* (L.) All.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

サンショウモ科 Salviniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮遊性の一年生シダ。茎は長さ5~10 cmになり、葉は各節に三輪生する。二葉は対生する浮葉となって水面に浮かび、一葉は水中葉で細裂して根状となり、水中に垂れる。浮葉は単葉で楕円~長楕円形、円頭、長さは2 cmほどで幅は1 cm以下である。表面には小束毛を密につけ、裏面には軟毛をつける。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、インドシナ、インド、ロシア、ヨーロッパ、北米に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の水田、池沼の水面に浮遊して生育する。

4. 生育状況

遠江の南部低地では、今日も各地に点在、生育しているものの、かつてほど見られない。他の地区では、著しく減少し、ほとんど見られなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

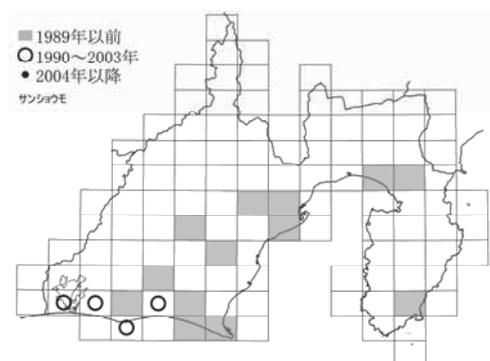
池沼や水路の消失(12、13)、水田の耕地整理や消失(15)も多く、既に絶滅した所が多い。水田除草剤や農薬にも弱いようで、これによる水質の悪化(32)も影響している。

6. 保護対策

低地水田、池沼の生育環境に配慮した保護対策が必要である。池沼や水路の整備工事にも気を配り、良好な生育環境の維持が望まれる。(細倉哲穂)



浜松市 1994年10月1日 宮崎一夫



アカウキクサ *Azolla imbricata* (Roxb. ex Griff.) Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

サンショウモ科 Salviniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

浮遊性の小型常緑性シダ。茎は水面で水平に伸びて分岐し、葉と少数の根を生じる。植物体は三角形で長さ1~1.5 cm。葉は無柄で長さ1.5 mm。茎とともに表面に粒状突起が密生する。根は分岐して水中に沈み、長い根毛がある。孢子嚢群は秋以降に成熟し、大孢子には多数の浮遊器官がある。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島南部、台湾、インドなどに、国内では本州（東京都と東海地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水田、池沼、溝など。

4. 生育状況

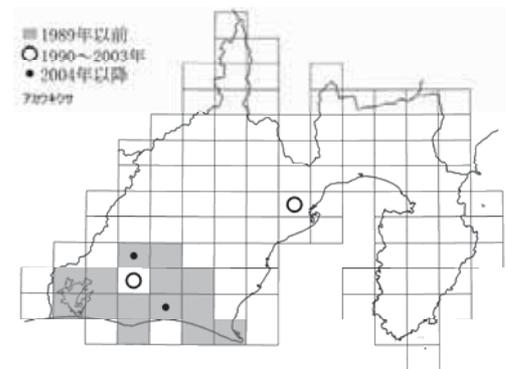
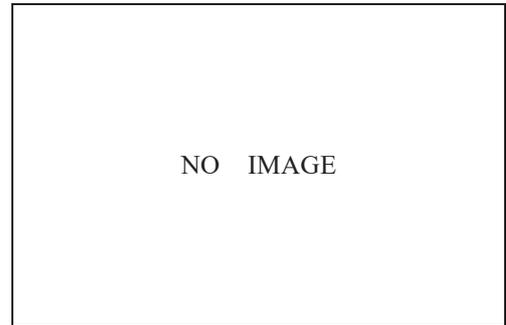
かつては県西部に広く分布していたが、前回（2004年）の調査時には4ヶ所、今回はわずか2ヶ所で確認されたに過ぎない。

5. 減少の主要因と脅威

農薬の使用（32）と水田の圃場整備（15）が減少の主要因である。

6. 保護対策

水田で生育が確認できたら、農薬の使用を止め、有機農法で稲作を行いたい。（湯浅保雄）



オオアカウキクサ *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 1,18

サンショウモ科 Salviniaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑の浮遊性小型水生シダ。茎は水面で羽状に分岐する。葉は鱗片状で互生して密生する。長さは約2 mmで、葉面の突起はほとんどない。根は水中に伸びるが根毛がない。孢子嚢群は初夏から夏に成熟する。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に、県内では伊豆、東部、中部、西部に分布するが、特に東部と西部に多いようである。

3. 生育環境

低地の湖沼、養鰻場の跡地、水田やその水路、河川の止水域などの水面に浮遊して生育する。

4. 生育状況

各地の低地の水田地帯に点在する。条件がよければ、水田や池沼に大群生することもある。水田の消失により絶滅した所もふえてきた。農薬や除草剤にも弱いようで激減したが、近年は一部の所で復活の兆しも見られる。

5. 減少の主要因と脅威

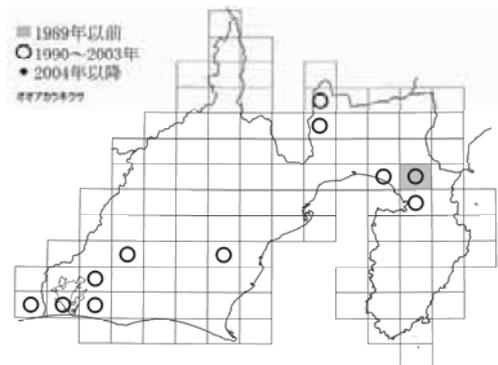
水田地帯の整備・消失（15）、水路の改修（13）などによる減少も多い。さらに、農薬、除草剤の使用（32）も脅威である。

6. 保護対策

水田、それに伴う水路の改修などが減少、絶滅の危機を招いているので、これらによる生育環境の悪化を防ぐ対策が必要である。（細倉哲穂・湯浅保雄）



清水町 1994年3月24日 杉野孝雄



ユノミネシダ *Histiopteris incisa* (Thunb.) J. Sm.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ (県内では半常緑)。葉は先端の成長がとまらないため、葉身は1.5~2 mほどにまで達する。根茎は長く這い、径1 cmを超える。葉柄は長さ50~70 cm、基部で径1.5 cmほどもあり、暗褐色で光沢がある。葉の裏はやや粉白となる。葉身は2~3回羽状、孢子嚢群は小羽片の辺に連なり、偽包膜で覆われる。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、東南アジア、オーストラリア、太平洋諸島、アフリカに、国内では本州 (静岡県、和歌山県)、九州、琉球、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の、向陽地だがやや湿潤な林内や林床、溪流沿いなどの地上に生育している。

4. 生育状況

産地はきわめて局限されている。今は群生する所もあるが、今後の生育環境の継続が心配である。

5. 減少の主要因と脅威

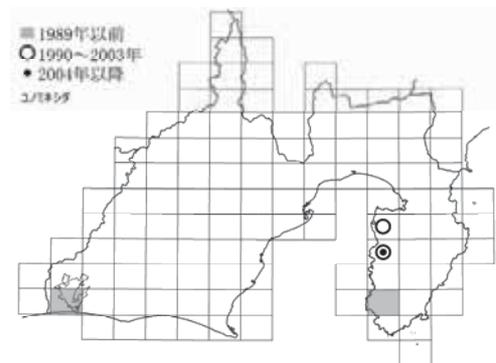
林道の整備工事 (24)、ダム建設 (25)、山林の樹木伐採 (11) などによる生育環境の悪化が懸念される。

6. 保護対策

生育地は分布の北限地という貴重な場所である。林道の整備、山林の伐採などによる生育環境の破壊の脅威に留意しながら、拠点個所を決めての生育地の保護が必要である。(細倉哲徳)



西伊豆町 2006年8月8日 細倉哲徳



タキミシダ *Antrophyum obovatum* Baker

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

シシラン科 Vittariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉は多くは10 cm程度であるが、環境がよければ20 cmほどにまで達することもある。やや長い卵~長楕円形の葉を数枚つけ、葉身にははっきりした葉軸はない。脈は網状になっているが、葉肉が厚くて見えない。孢子嚢群は葉裏の窪んだ浅い溝につき、葉面全体に広がる。

2. 分布

国外では台湾、中国、インドシナ、タイ、インドに、国内では本州 (千葉県以西、富山県以南)、四国、九州に分布する。県内では各地に分布している。

3. 生育環境

暖地の山地林内、あるいは溪流近くのやや湿った岩壁や岩上に、コケ類とともに着生し、生育する。

4. 生育状況

産地は全県に点在するが、生育場所は局限され、個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採 (11) などによる生育地の乾燥化、環境の悪化、園芸採取 (41) が絶滅や減少の脅威である。

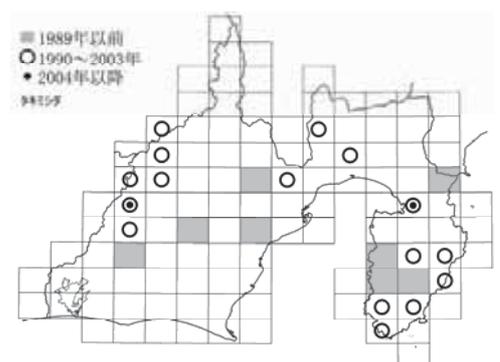
6. 保護対策

生育地の生育環境の保護が必要で、山林の樹木伐採や林道の整備などによる生育地の乾燥化を防止する必要がある。

(細倉哲徳)



沼津市 2016年6月26日 内藤宇佐彦



ナカミシシラン *Haplopteris fudzinoi* (Makino) E. H. Crane

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

シシラン科 Vittariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小～中型の常緑性シダ。葉は長さ 25～40 cm ほどに達し、葉身は線形、幅は 3～5 mm で肉質である。中肋は裏面でやや隆起、幅広く、裏面にも少し隆起、その両側に明瞭な 2 条の溝がある。生態、形態ともに似たシシランは、表面の溝が 1 条であることで、区別できる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（東京都以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（天城山）、東部（愛鷹山）、西部（北遠）に分布する。

3. 生育環境

深山の山林内、樹幹や岩壁、岩上に着生して生育し、下垂する。

4. 生育状況

産地が局限され、数少ない産地でも個体数は少なく、減少、絶滅の危機にある。

5. 減少の主要因と脅威

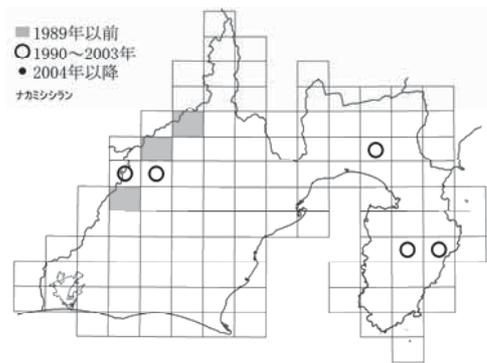
限られる生息地の消失 (71) で減少している。山林の樹木伐採 (11) などによる生育環境悪化も脅威となっている。

6. 保護対策

着生植物の場合、何も本種に限られる訳ではないが、着生する樹木の保護が第一義的に重要である。生育地の山林伐採による環境への影響を防ぐことも必要である。
(細倉哲穂)



浜松市 1983年9月25日 内藤宇佐彦



アイコハチジョウシダ *Pteris laurisolvicola* Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) : 変更なし

オモダカ科 Alismataceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ（県内では半常緑）。葉長 70 cm ほどに達する。葉身は 2 回羽状複葉で、羽片はやや斜上、中央部が広くなり、基部は楔形から切形。和名の「アイ」は中間を意味し、ニシノコハチジョウシダとハチジョウシダモドキの中間的な特徴をもつが、孢子正常で、雑種ではない。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（静岡県、紀伊半島）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（下田市、南伊豆町）、東部（沼津市）、中部（静岡市）に分布する。静岡県は分布北限・東限地である。

3. 生育環境

暖地山地の山林内や草地、道沿いに生育する。

4. 生育状況

生育地は局限され、個体数も少なく、かつて知られた生育地でも、今は知られない所が多い。伊豆では、温暖化による分布の北上が考えられるが、生育適地はまだ少ない。

5. 減少の主要因と脅威

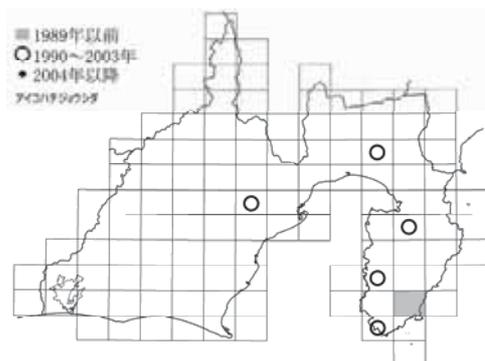
生育地は局限され (61)、出現してもその後の環境変化 (71) で見られなくなることが多い。

6. 保護対策

生育地、周辺の山林の伐採、林道の改修などによる環境変化を防ぐ必要がある。
(細倉哲穂)



静岡市 2002年6月22日 杉野孝雄



ハチジョウシダモドキ *Pteris oshimensis* Hieron.

(=コハチジョウシダ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。ハチジョウシダに似るが、葉質はやや薄くやや革質。単羽状複生で羽片は幅がほぼ平行的で基部は広楔形。葉軸とは70°ほどの角度で斜上して出る。葉は長さ70 cmほどに達し、羽片は7～10対、下から3番目ほどまでの羽片はほぼ同長、下部羽片に小柄がある。最下羽片外側に1～2個の長い小羽片を出す。

2. 分布

国外では中国、インドシナに、国内では本州(千葉県から紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では伊豆(伊豆市、河津町、旧賀茂村)などに分布する。

3. 生育環境

暖地の山地の林下や平地の林内に稀に生育している。

4. 生育状況

伊豆地方の数ヶ所に生育が限定され、個体数も一般に少ないが、環境がよい場合、場所によっては小群落を作る。

5. 減少の主要因と脅威

林道整備工事(24)や樹木伐採(11)などによる生育環境の悪化が脅威となっている。

6. 保護対策

山林の樹木伐採、小河川、溪谷の整備工事、林道の改修などで、生息環境への悪影響が生じないように対策を講ずる必要がある。(細倉哲穂)



西伊豆町安城岬 2006年10月22日 細倉哲穂



ヒノキシダ *Asplenium prolongatum* Hook.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。根茎は短く斜上又は直立し、葉を叢生する。葉は2回羽状複生で、長さ30 cm前後に達する。中軸の先端は伸長して無性芽をつける。孢子嚢群は、小羽片内側の辺寄りに1つずつつき、線形で、同形の包膜に覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、インドシナ、インド、スリランカに、国内では本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。静岡県は分布の北限、東限地。

3. 生育環境

暖地の山地林内の溪流沿いの岩上、岩壁に着生する。

4. 生育状況

伊豆は東海岸、西海岸を中心に、点在だが産地は結構多い。無性芽で繁殖するので、群落が形成されることも多い。

5. 減少の主要因と脅威

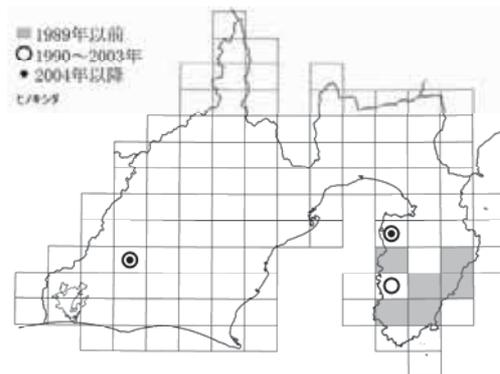
樹木伐採(11)や河川改修(13)、ダム建設(25)、林道整備(24)などが大きな脅威となっている。

6. 保護対策

周囲の山林伐採や林道整備は、生育地の日当たりをよくしたり空中湿度を低下させる。そうしたことがないように、生息地の環境に影響がないようにすることが必要。(細倉哲穂)



沼津市 2010年3月20日 細倉哲穂



ホソバショリマ *Thelypteris beddomei* (Baker) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒメシダ科 Thelypteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ（静岡県では夏緑性）。根茎は長く這い、その先端近くに葉をやや密生してつけ、群落をなす。葉は直立し、2回羽状深裂。葉身は倒披針形で鋭尖頭。下部羽片はだんだん短くなり、著しく短くなってほとんど耳片状になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、フィリピン、インドネシア、インド、スリランカ、ニューギニアに、国内では本州（静岡県、岐阜県、三重県、広島県）、四国（徳島県、愛媛県）、九州に分布する。県内では東部（富士宮市）に分布する。

3. 生育環境

暖地の湿原や山地林内のやや湿った地上、林縁斜面などに生育する。

4. 生育状況

産地はごく限られている。群落は残っているが氣息奄々の生育地もある。

5. 減少の主要因と脅威

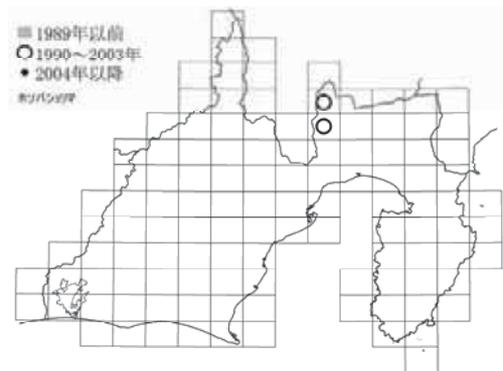
湿原の開発行為（15）、周辺の樹木伐採（11）、道路整備工事（24）などが生息地消失や環境悪化をまねく。

6. 保護対策

本種生育地は富士宮市の天然記念物に指定されているが、環境の保全など、保護行政がしっかり機能しているとは思われない。（細倉哲穂）



富士宮市 2003年9月6日 杉野孝雄



テバコワラビ *Athyrium atkinsonii* Bedd.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉は密接してつき、葉長80~150 cm、広卵形または三角状卵形で、三、四回羽状複生する。羽片、小羽片は有柄で互生、小羽片は内先である。裂片は広楕円形で、円頭、小鋸歯縁。孢子嚢群はやや中肋寄りに位置、辺縁に小歯牙のある小さな包膜をもつ。

2. 分布

国外では台湾、中国、インド、ネパール、パキスタンに、国内では本州（関東、中部、近畿北部、山口県）、四国、九州に分布する。県内では中部（静岡市）と西部（旧本川根町）に分布する。

3. 生育環境

山地や高原の林内、林床、やや湿潤な谷間などに生育する。

4. 生育状況

産地は局限されており、個体数もきわめて少ない。林道沿いの、人のよく歩く所にも見られる。

5. 減少の主要因と脅威

林道整備工事（24）、樹木伐採（11）などによる生育地の環境悪化や、踏みつけ（51）による影響が懸念される。

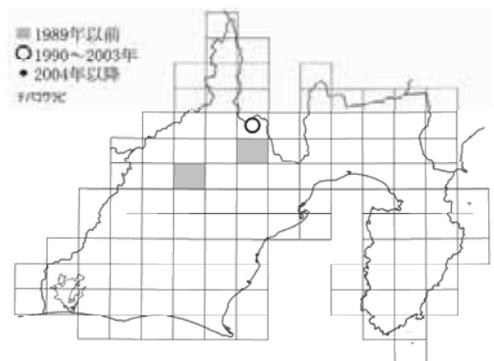
6. 保護対策

前項に記載した脅威から絶滅を防ぐ必要がある。

（細倉哲穂）



静岡市 2001年6月8日 内藤宇佐彦



イワシダ *Diplaziosis cavaleriana* (H. Christ) C. Chr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は直立または斜上、葉を叢生する。葉身は披針～広披針形で、長さ70 cmほどまでになる。葉は薄くやわらかい草質、頂羽片がはっきりした単羽状。頂羽片、側羽片は同大で同形。葉柄基部には黒褐色の鱗片。孢子嚢群は中肋近くに並び、これを包膜が包み込んでソーセージ状になる。「イワヤ」は愛媛県岩屋寺。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆市天城山中の数ヶ所に産するのみである。

3. 生育環境

暖地の山地林内、やや陰湿な林下に稀に生育する。特にスギの林下に多い。

4. 生育状況

天城山中のごくわずかな所に生育するだけで、群落を作っている所もあるが、個体数は多くない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採など(11)による生育環境の悪化で減少している。近年は、シカの食害(52-1)による脅威にさらされている。

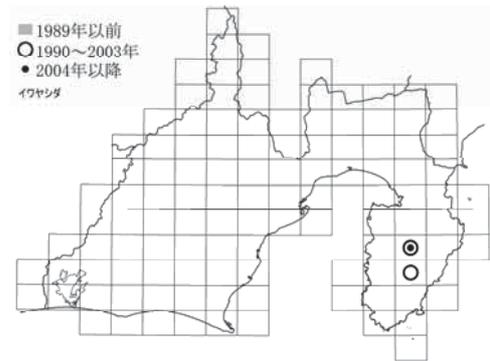
6. 保護対策

山林の樹木伐採、河川の改修、林道の整備などによる生育地の乾燥化、環境の悪化を防ぎたい。

(細倉哲穂)



伊豆市 2007年11月11日 杉野孝雄



イヨクジャク *Diplazium okudairae* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンド科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ノコギリシダに似るが、葉身は革質で根茎はやや短く、葉は接近して出る。葉は60 cmほどまで、単羽状。羽片は8～10対位で、羽片基部上側に大きな耳片をもつ。上部羽片基部は葉軸に沿着し、羽状深裂の頂羽片のような形になる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州(静岡県以西の太平洋側)、四国、九州に分布する。県内では伊豆(天城山)、東部(愛鷹山)に分布し、静岡県が分布の東限である。

3. 生育環境

暖地の山林下の溪流沿いなど、やや陰湿な地上に生ずる。

4. 生育状況

県内ではごく稀に生息することが分かっているだけである。根茎を伸ばして繁殖するが、大きな群落にはならない。

5. 減少の主要因と脅威

山林の樹木伐採など(11)による環境変化により、減少している。近年はシカの食害(52-1)も目立ってきた。

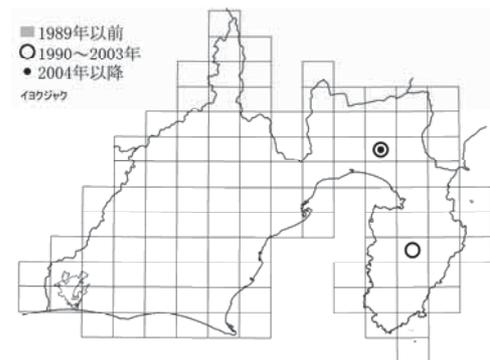
6. 保護対策

山林の樹木伐採、河川の改修、林道改修などによる生育地の乾燥化など環境の悪化を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂)



富士市 2007年7月28日 杉野孝雄



ニセコクモウクジャク *Diplazium virescens* Kunze

var. *conterminum* (H. Christ) Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。コクモウクジャクの変種。葉は長さ1.8 m、幅80 cmに達する。葉柄下部の鱗片は黒～黒褐色。葉身は3回羽状。最下羽片は明瞭な柄をもつ。小羽片は浅～中裂、基部は切形に近い。孢子嚢群は長楕円形で辺縁寄りにつく(コクモウクジャクは中肋と辺縁の中間につく。)

2. 分布

国外では中国、ベトナム、タイに、国内では本州(神奈川県～紀伊半島の太平洋岸)、四国、九州、琉球列島に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地林下の谷筋などやや湿気の多い場所に生育する。

4. 生育状況

生育地では根茎が這って繁殖するので、群落を作る。しかし、土砂崩落や山林伐採で減少している所もある。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修(13)、崖崩れなどの自然災害(55)、林道整備(24)、山林伐採(11)により減少している。

6. 保護対策

生育地の山林伐採、林道の拡幅などの改修工事、河川上流部の開発などによる環境の悪化を防ぎたい。

(内藤宇佐彦・細倉哲穂)



湖西市 2008年12月14日 内藤宇佐彦



アオキガハラウサギシダ *Gymnocarpium dryopteris* (L.) Newman

var. *aokigaharaense* Nakaike

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

イワデンダ科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の夏緑性シダ。ウサギシダの変種である。葉身は3回羽状複生する。葉柄、葉軸が無毛であることはウサギシダに似るが、葉身全形はウサギシダとイワウサギシダの中間的な形をしている。下から2番目の羽片にも柄があるのが特徴だが、この2番目の柄が明瞭でない場合もある。

2. 分布

日本固有変種で、本州(東北地方南部、関東地方、中部地方)に分布する。県内では東部(小山町、富士宮市)、中部(静岡市)に分布する。静岡県は分布南限である。

3. 生育環境

山地林下のやや陰湿な岩壁に生育している。根茎が這うことで繁殖するので、小規模ながら群落を作る。

4. 生育状況

生息地も局限されていて、各生育地での個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

遷移の進行(54)、樹木伐採(11)による乾燥化、登山道の近くでの踏みつけ(51)による減少、絶滅のおそれがある。

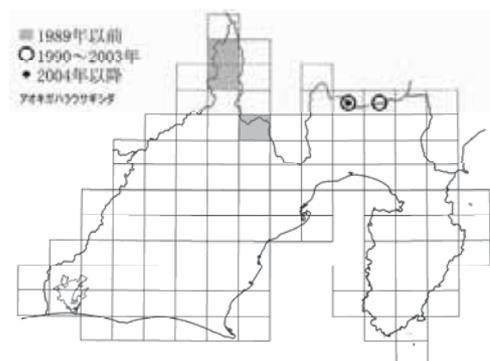
6. 保護対策

山林伐採による生育地の乾燥化、登山道の整備、登山者による踏みつけなどを防ぎたい。

(細倉哲穂)



富士宮市 2008年9月5日 細倉哲穂



イワウサギシダ *Gymnocarpium jessoense* (Koidz.) Koidz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

イワデンダ科 Athyriaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

夏緑性シダ。根茎は長く横走して暗褐色。葉は長さ15~30 cm。葉身は三角状長卵形。葉柄は長さ5~20 cm、細くて腺毛があり基部に鱗片がある。最下羽片は第2羽片より少し大きく有柄である。孢子嚢群は裂片の辺縁の近くにつきほぼ円形である。近縁種のアオキガハラウサギシダは第2羽片も有柄である。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州(奈良県以東)、四国に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の草本類がまばらな蛇紋岩や石灰岩からなる岩礫地に生育している。

4. 生育状況

産地は光岳、北荒川岳周辺に局限する。株数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

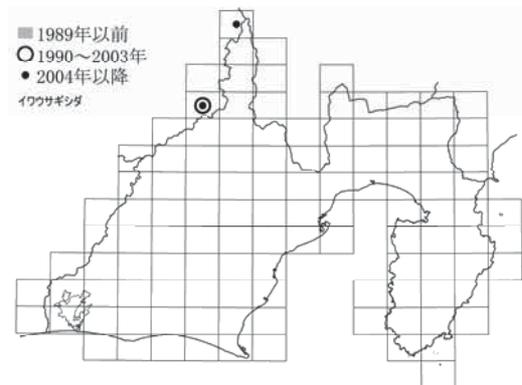
植生遷移(54)や踏圧(51)が主要因である。マニアによる採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

登山道を迂回指定して踏圧を軽減する。(宮崎一夫)



静岡市 2013年7月13日 室伏幸一



カツモウイノデ *Ctenitis subglandulosa* (Hance) Ching

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) 変更なし

オンダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の常緑シダ。葉は1 m以上に達する。根茎は斜上、葉柄下部には長い線形の茶褐色の鱗片が密生、葉柄、葉軸には褐色で披針形の鱗片がはりつく。葉身は卵状三角形で3回羽状深裂する。孢子嚢群は小羽軸近くにつき、包膜は円形で辺縁は不規則に裂け、腺状、毛状の突起がある。

2. 分布

国外では台湾、中国、フィリピン、インドシナ、インドに、国内では本州(千葉県、静岡県、紀伊、島根県)、四国(太平洋側)、九州、琉球、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の谷間、林下のやや湿ったところから尾根筋まで生じ、群生する。

4. 生育状況

所によっては群生地もあるが、多くは小群落で個体数は少ない。中部、西部の産地も極稀で、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)により、絶滅した所も出てきた。自然災害(55)の影響を受けて減少している所もある。

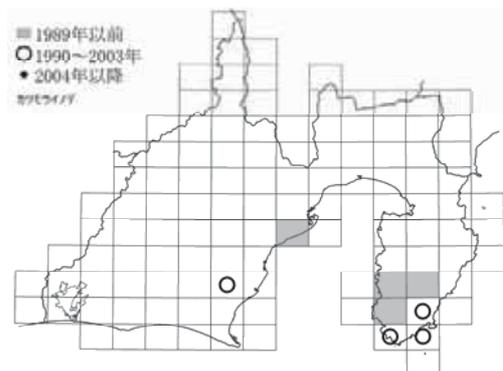
6. 保護対策

山林伐採や林道整備工事などで、生息地の環境が改変されたりしないようにする必要がある。

(細倉哲穂)



牧之原市 2002年7月31日 杉野孝雄



イズブソテツ *Cyrtomium atropunctatum* Sa. Kurata

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉は1 mほどに達し、根茎は塊状、葉身は単羽状。頂羽片は明らかで、側羽片は10~20対、広披針形で両縁はやや平行的である。耳片はほとんどない。葉の表面はやや黒味のある緑色、孢子嚢群は羽片の中に散在、包膜の中心は黒褐色で、辺はやや不規則に切れる。

2. 分布

日本固有種で、本州（茨城県、神奈川県以西）、九州に分布する。県内では伊豆と中部に分布する。伊豆は本種の基準産地である。

3. 生育環境

暖地の林内や溪流沿いなど陰湿な場所の地上に生育する。特にスギの人工林下に多い。

4. 生育状況

山地林下に点在分布し、個体数は少なく、稀である。

5. 減少の主要因と脅威

樹木伐採 (11)、林道・河川の改修 (24、13)、ダム建設 (25)、近年はシカの食害 (52-1) の影響も受けている。

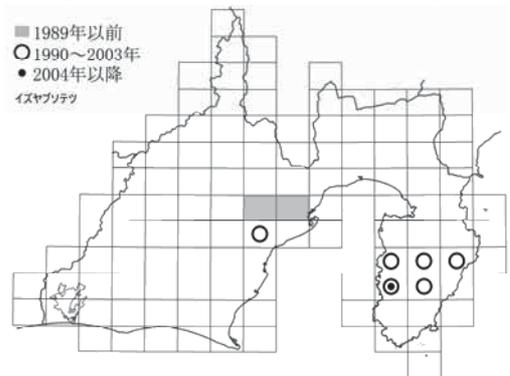
6. 保護対策

山林の伐採、道路改修、河川改修などで、生育地の環境に影響が生じないようにする必要がある。

(細倉哲穂)



西伊豆町 2008年11月23日 細倉哲穂



ヒロハヤブソテツ *Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の常緑性のシダ。葉は長さ1 m前後に達する。葉柄下部に黒褐色、卵~披針形の鱗片。大きくて幅広い頂羽片の下に2~8対の側羽片がある。側羽片は円形で、耳片はない。孢子嚢群は葉裏に散在、包膜は緑色から灰白色で、やや早落性である。

2. 分布

国外では中国、ヒマラヤに、国内では本州（千葉県以西、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下、やや陰湿な場所の林内に生ずる。

4. 生育状況

伊豆では各所に点在分布するが、個体数は各所とも少ない。中部、西部は産地自体も少なく、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

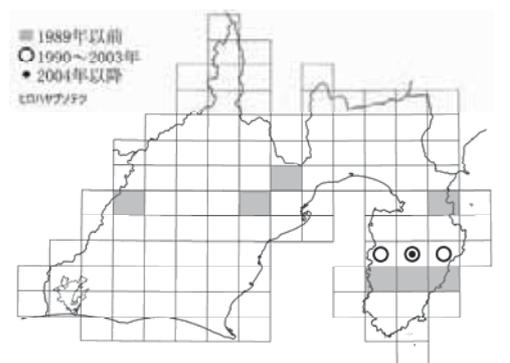
樹木伐採 (11)、観察路や林道の整備 (24)、シカの食害 (52-1) などによる絶滅が懸念される。

6. 保護対策

山林の樹木伐採や、河川水路の改修、整備による生育地の消失など、生育環境に影響が生じないようにする必要がある。よかれと思ってなされる観察路の整備なども注意する必要がある。(細倉哲穂)



伊豆市 2006年8月28日 細倉哲穂



ツクシャブソテツ *Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa
 var. *tukusicola* (Tagawa) Tagawa

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし オシダ科 Dryopteridaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。ヒロハヤブソテツの変種である。葉身は25～50cmで、長楕円～広披針形。頂羽辺の下に5～10対の側羽片があり、この側羽片は幅やや狭く、基部は円みをもたず楔形となる。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（千葉県、栃木県以西、長野県以南）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地林下の陰湿な所、溪流沿いなどに生育する。

4. 生育状況

各地に点在分布するが、もともと生育場所は少ない上、各生育地においても個体数はごく少ない。

5. 減少の主要因と脅威

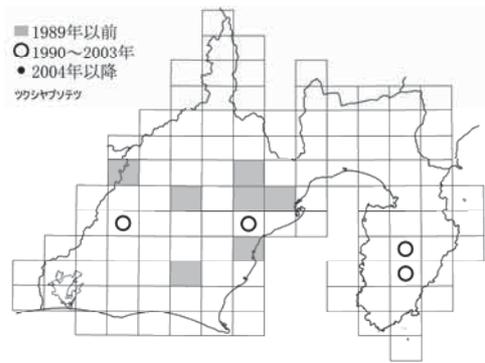
樹木伐採 (11)、林道の整備 (24) などにより、生育地自体の消失、絶滅が懸念される。野生動物の食害 (52-2) の影響も受けている。

6. 保護対策

山林の伐採、河川の改修などによる生育地の消失、本変種の絶滅が懸念される。生育環境に影響が生じないようにする必要がある。
 (内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
 浜松市 2002年3月10日 内藤宇佐彦



ホオノカワシダ *Nothoperanema shikokiana* (Makino) Ching

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし オシダ科 Dryopteridaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。葉は長さ80cm前後に達し、根茎は斜上する。葉柄、葉軸に黒褐色、広披針形の鱗片を密生する。葉身は長卵形で3回羽状複生し、最下羽片が最大となる。胞子嚢群はやや中肋寄りにつき、包模を欠く。「ホオノカワ」は、高知県須崎朴の川山に因む。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州（神奈川県以西、福井県以南の主として太平洋側）、四国、九州に分布する。県内では伊豆（天城山）に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下、溪流沿いの林内など、やや陰湿な場所の地上に生ずる。

4. 生育状況

伊豆半島の中南部に生育地は限られており、各生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

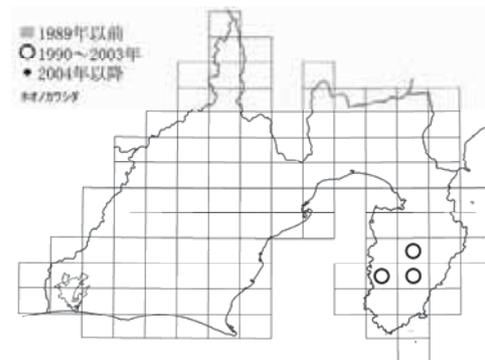
山林伐採 (11)、河川改修 (13)、林道整備 (24) などによる環境悪化で減少している。

6. 保護対策

山林伐採、河川改修などによる生育地の消失を防ぎ、減少、絶滅を防ぐ必要がある。
 (細倉哲穂)



©2020 T.Sugino
 河津町 2003年1月19日 杉野孝雄



ヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H. Itô) Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑性シダ。ヌカイタチシダモドキとサイゴクベニシダの中間的性質をもつ。葉面は光沢が少なく、葉は2回羽状複生。羽片は羽軸にほぼ直角につく。小羽片は間隔があり、すけて見える。

2. 分布

国外では中国(南部)に、国内では本州(中部地方、近畿地方)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の乾いた林床に生育する。

4. 生育状況

生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が里地に近いため、土地開発(23)などの影響を受けやすい。

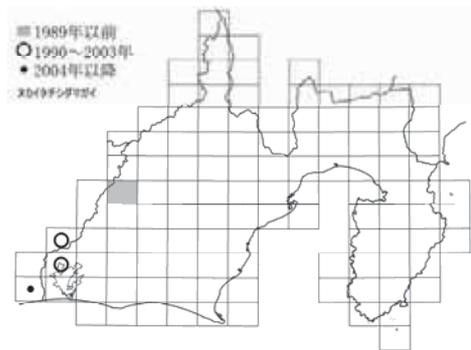
6. 保護対策

産地が限られている植物なので産地の個別の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2017年1月2日 内藤宇佐彦



アツギノヌカイタチシダマガイ *Dryopteris simasakii* (H. Itô) Sa. Kurata

var. *paleacea* (H. Itô) Sa. Kurata

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。ヌカイタチシダマガイに似るが、葉柄と葉軸の鱗片の量がより多く、葉面の光沢も増す。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国(南部)に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。本県は分布の東限である。

3. 生育環境

低山地の林床で乾いた岩場や地上に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区などに生育する。生育地での個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が人里に近いため、道路の拡張(24)や、森林伐採(11)の影響を受けやすく、容易に消滅する危険性がある。

6. 保護対策

産地の限られた植物なので生育地が消失しないように注意が必要である。既知産地のものは再検が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年6月24日 内藤宇佐彦



タニヘゴ *Dryopteris tokyoensis* (Makino) C. Chr.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。根茎は塊状でほぼ直立する。葉は1 mほどにも達し、単羽状複生する。葉柄下部に淡茶色、長卵形の鱗片をやや密につける。葉身は倒披針形で、下部羽片は次第に短くなり、最下羽片はほとんど耳片状になる。羽片は浅～中裂、切れ込み具合には変化がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の明るい湿地に生じる。

4. 生育状況

富士宮田貫湖では今日も多産するが、県内の他の生育地では、何れも絶滅したか、絶滅のおそれがある。比較的最近、三島でも見つかったが、生育地改変で絶滅した。

5. 減少の主要因と脅威

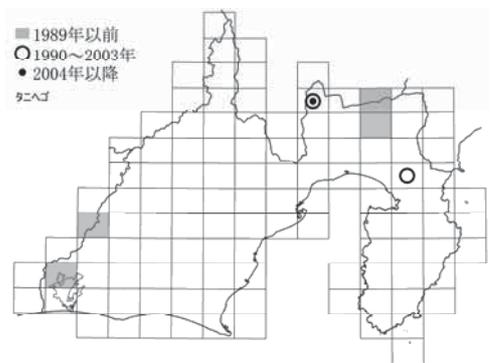
植生遷移 (54) や生育地の改変工事 (15) により減少・消失、観察路整備 (15) で減少している所もある。日本海側に多く、太平洋側には少ない。温暖化 (71) の進む中では、東海では滅びゆく種類であるかも知れないことに留意。

6. 保護対策

生育地である高原の湿地周辺の改変工事、樹木伐採などによる土地の改変などを防ぐ必要がある。植生の遷移に気を配りながら、観光地では観察路の整備による水の遮断に留意する必要がある。(細倉哲穂)



富士宮市 2003年7月20日 杉野孝雄



イナデンド *Polystichum capillipes* (Baker) Diels

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) : 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

葉長4~8 cm、小型の夏緑性シダ植物である。根茎は小さく、葉柄には茶色で披針形の鱗片をまばらにもつ。葉身は2回羽状複葉で、下部羽片は少しずつ短くなっていく。小羽片は下部のほぼ1対が独立し、他の羽片は羽軸に沿着する。

2. 分布

日本固有種で、本州(秩父、南アルプス)に分布する。県内では中部(静岡市など)に分布する。

3. 生育環境

亜高山~高山帯の、やや湿った岩上や岩の間、樹幹などに生育する。好石灰岩シダ植物である。

4. 生育状況

生育地は局限され、個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

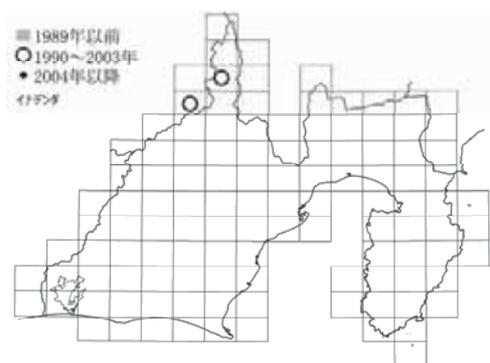
植生遷移、わずかな環境変化(54)が減少、絶滅につながるおそれがある。登山者の踏みつけ(51)も脅威となる。

6. 保護対策

生育地の植生遷移、環境変化に留意する必要がある。登山者が登山道以外に立ち入らないようにし、生育環境の悪化を防ぐ必要がある。(細倉哲穂)



長野県 2013年7月26日 室伏幸一



タカノハウラボシ *Selliguea engleri* (Luer) Fraser-Jenk.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

中型の常緑性シダ。葉は長さ30~50 cmに達し、根茎長く這い、葉柄基部、根茎に、茶褐色、披針形、全縁の鱗片を密生する。葉身は単葉で、幅は平行的に細長い。ミツデウラボシの単葉のものに似るが3出しない。孢子嚢群は丸く、中間よりやや内側に入ったところにつく。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州（静岡県、紀伊半島南半、山口県）、四国、九州の南半、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地林下、やや湿った樹幹や岩壁に着生、生育する。

4. 生育状況

産地は限られ、各生育地での個体数は少ないが、根茎を伸ばして繁殖、小群落を作っている。

5. 減少の主要因と脅威

林道改修工事(24)、それに伴う山林の樹木伐採(11)、ダム工事(25)などによる生育地破壊、消失が脅威である。

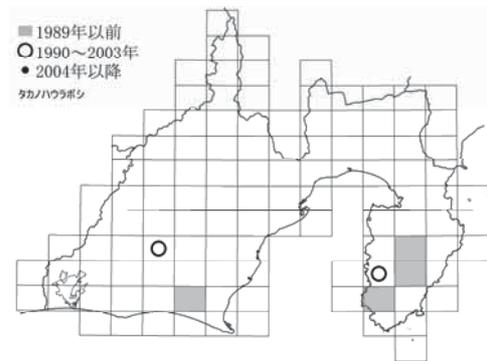
6. 保護対策

林道の改修、山林伐採などが脅威となっている。これらによる環境悪化を生じないようにする必要がある。

(細倉哲穂)



磐田市 2002年7月14日 杉野孝雄



オニバス *Euryale ferox* Salisb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

スイレン科 Nymphaeaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮水性の一年草。葉は盾状につく。水上葉には皺があり、裏面は紫色で網目状に葉脈が隆起し、両面の脈上に刺がある。花期は8~10月。花は径約4 cm。萼は基部で合着して萼筒を作り外面に刺がある。花弁は多数で紫色。雄蕊は多数。子房はふつう8室で花床中にある。水中には多数閉鎖花をつける。果実は楕円~球形で刺がある。

2. 分布

国外ではインド、中国(南部)、台湾、朝鮮半島、ロシア(沿海地方)に、国内では本州(宮城県以南)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

池沼やため池など富栄養な水中。

4. 生育状況

西部に広く分布していたが、出現数が年によって大きく変動するためか、あるいは調査不足のためか今回の調査では確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)で多くの生育地が消失したことと、釣りの邪魔になるため除去(71)されたことが減少の主要因である。

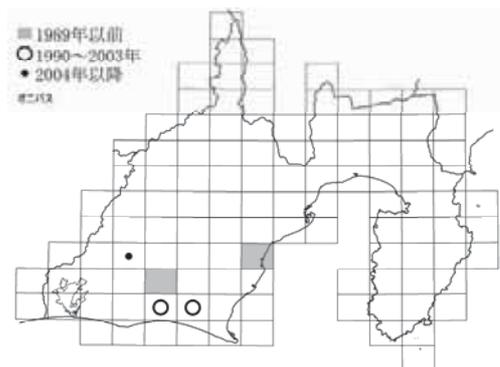
6. 保護対策

現存する生育地では、生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



浜松市(植栽) 2011年9月19日 宮崎一夫



カギガタアオイ *Asarum curvistigma* F. Maek.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠB類 (EN)]

1. 種の解説

常緑多年草。花は秋に開いて春まで残る。萼筒は広鐘形で長さ7~13 cm。上部はくびれる。花柱は逆長靴形で爪先は長く突出する。アマギカンアオイに似るが、花と葉柄、葉の裏は濃紫色で、葉脈は平らである点で異なる。

2. 分布

日本固有種で、本州（山梨県西部と静岡県）に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。秋葉山が基準産地であり、静岡県が主たる自生地である。

3. 生育環境

暖帯から温帯の標高30~900 mの林下に見られる。

4. 生育状況

自然林及び長く放置されて自然林に近い林に多い。西部、中部に多く、東部では少なく、芝川町や富士宮市まで生育している。

5. 減少の主要因と脅威

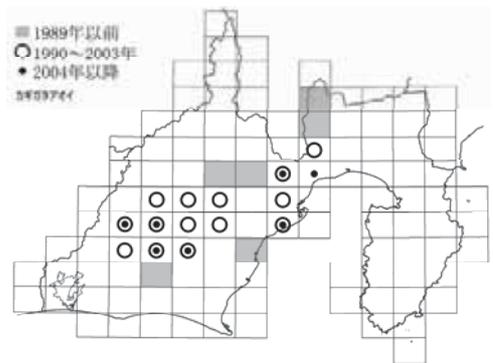
自生地の山林伐採 (11)、土地改変 (23) では激減する。繁殖の移動速度は遅く、植生の遷移 (54) にも対応できない。

6. 保護対策

自生地情報を細かく把握し、大規模な森林伐採や土地改変を防ぎたい。
(西口紀雄)



掛川市 2016年5月2日 湯浅保雄



イワタカンアオイ *Asarum kurosawae* Sugim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉はヒメカンアオイに似て円形で長さ幅とも5~7 cm、基部は心形、先は鈍頭である。萼片に細毛があり、萼筒内の格子紋は細かく縦脈は約30本ある。花期は12~1月でヒメカンアオイより早い。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県と愛知県）に分布する。県内では西部に分布する。磐田市が基準産地である。

3. 生育環境

丘陵地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

磐田市と浜名湖周辺などに生育する。個体数が多い所もあるが分布域がごく狭く、生育地の減少がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

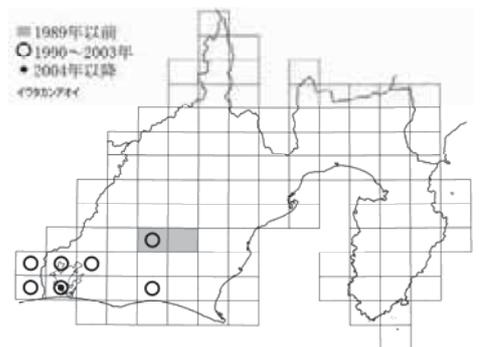
園芸採取 (41) が脅威である。また、人の生活域に近い丘陵地が主な生育地であるため、住宅地・工場・農地などの土地造成 (23) も脅威である。

6. 保護対策

産地情報の管理と土地開発に際しては十分な事前調査検討と、適切な措置が必要である。
(内藤宇佐彦)



湖西市 2016年1月2日 宮崎一夫



アマギカンアオイ *Asarum muramatsui* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉身は卵形または卵状長三角形で、長さ5~9 cm、幅4~7 cm。表面は鮮緑色で光沢が強く、葉脈は著しく陥入する。縁の近くに短毛を散生する。葉柄は緑色から暗紫色と変化に富む。花期は4~5月。萼筒は短い筒形、萼筒入り口には口環がある。また、その周囲には隆起したしわ状の壁がある。萼裂片の上面には短毛を密生する。葉柄の色の違いで別種とされていたシモダカンアオイは本種に統合する。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県）に分布する。県内では東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸に近い常緑樹林から山地の落葉広葉樹林まで。また、その範囲内のスギ、ヒノキの植林地。

4. 生育状況

種子の分散能力が小さいためか、小さい集団を形成して生育している。今回の調査では確認地点が少ないが、調査不足が影響していると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

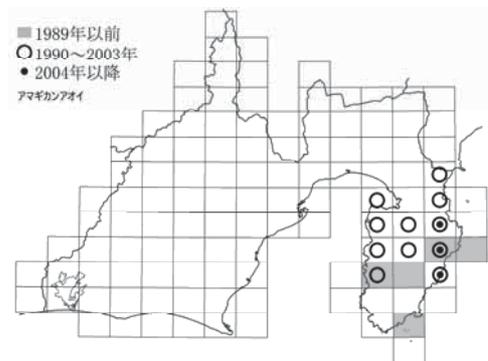
林地開発 (11)、園芸採取 (41)、シカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林開発の規制とシカによる食害防止を行うこと。(湯浅保雄)



東伊豆町 2019年5月15日 室伏幸一



ズソウカンアオイ *Asarum savatieri* Franch. subsp. *pseudosavatieri* (F. Maek.)

T. Sugaw. var. *pseudosavatieri*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉身は卵形から楕円形で長さ6~12 cm、幅5~9 cm。基部は心形、先は幾分尖る。表面は光沢がなく、毛を散生。萼筒の長さは7~11 mmで、上部で幾分かびれる。花期は10~11月。オトメアオイによく似るが花期が異なる。

2. 分布

日本固有変種で、本州（神奈川県、静岡県）に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

低山の樹林地。

4. 生育状況

前回 (2004年) 調査時に比べると、今回の調査では生育地が格段に減少している。その一因として調査不足が考えられる。種子の分散能力が小さいため、小集団で生育しているので、生育地の確認を困難にしている。

5. 減少の主要因と脅威

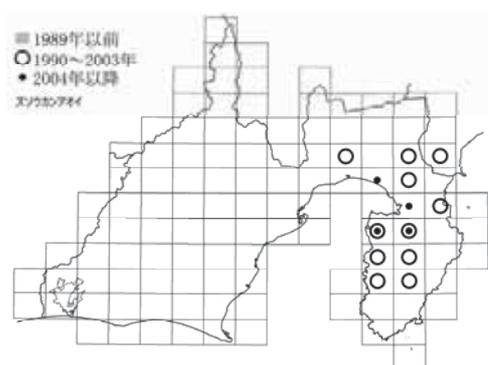
森林の開発 (11)、園芸採取 (41)、シカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

6. 保護対策

森林開発の抑制とシカによる食害の防止策の考案。
(湯浅保雄)



伊豆の国市 2002年11月9日 杉野孝雄



シロモジ *Lindera triloba* (Siebold et Zucc.) Blume

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更コード 10

クスノキ科 Lauraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。高さ1~5 m。幹は直立叢生する。葉は有柄で互生し、広卵形で長さ7~12 cm、基部はくさび形で3行脈があり、多くは3中裂して裂片の間に円みがある。雌雄異株。花期は4月。花序柄は長さ2~4 mm。花は3~5個が集まり淡黄色で葉に先立って開く。果実は球形で径1 cm。近縁種のダンコウバイは花序柄がなく、3裂する葉は浅く裂けて、基部が円形から浅心形である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州(中部地方以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖帯から温帯の山地で適湿な落葉樹林中に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に局限しているが、近年、多数株の群生が確認された。しかし植林の高木に被陰されて生育は不良である。

5. 減少の主要因と脅威

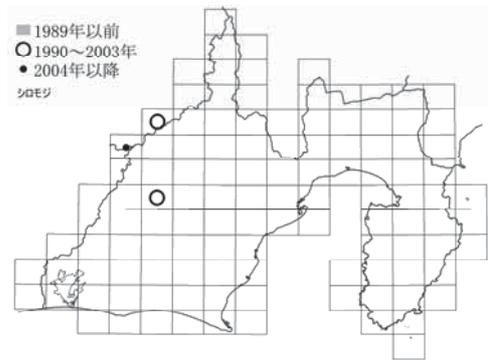
本種を含む落葉樹林の皆伐(11)と、周囲の高木による被陰(71)が主要因である。

6. 保護対策

落葉樹林の皆伐を回避する。周辺樹木の伐開により光条件の改善を図る。
(宮崎一夫)



浜松市 2006年06月10日 宮崎一夫



ヒトツバテンナンショウ *Arisaema monophyllum* Nakai

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。地下茎は扁球形で、子球はつかない。葉は1(~2)枚。葉身は鳥足状に分裂し、小葉は7~9枚。小葉間の葉軸はよく発達する。花期は5~6月。舷部は外面緑色、内面にはハの字形の濃紫色の斑がある。花序付属体は有柄で細い棒状。上部で前に曲がる。仏炎苞舷部の内面全体が紫褐色となる品種クロハシテンナンショウも対象である。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州(中北部)に、県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から冷温帯の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は少ないが、生育場所ではかなりの個体数が見られる。

5. 減少の主要因と脅威

ヒノキ、スギ人工林の増加(71)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育環境の保全が必要である。

(湯浅保雄)



静岡市 2016年5月14日 湯浅保雄



ミミガタテンナンショウ *Arisaema limbatum* Nakai et F. Maek.

(=オキノシマテンナンショウ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 70 cm に達する。葉は通常 2 個。葉身は鳥足状に分裂し、小葉間には葉軸がやや発達する。小葉は 7~11 枚、花期は 3~5 月。花序は葉より早く展開し、花時には花序柄は葉柄より長く伸びる。仏炎苞は黒紫色で白い縦条が目立つ。筒部は口辺部が耳状に広く開出する。花序付属体は棒状から棍棒状で、仏炎口部より長く出る。球茎の腋芽は子茎になる。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州（東北地方~中国地方東部の太平洋側、兵庫県）、四国（高知県沖の島）、九州（大分県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖帯上部から温帯の落葉樹林内や林縁。

4. 生育状況

前回（2004 年）調査時に比べ著しく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

山林の開発（23）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。シカによる食害（52-1）も脅威である。

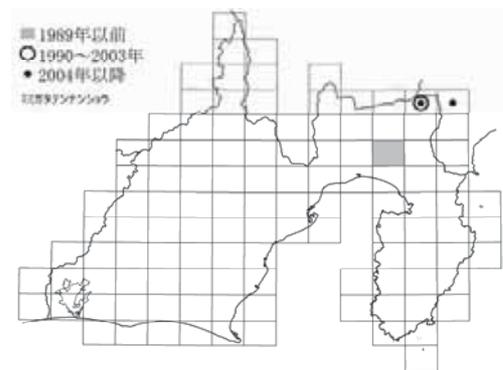
6. 保護対策

土地造成を制限すること。

(湯浅保雄)



小山町 2015年4月16日 湯浅保雄



ヒンジモ *Lemna trisulca* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ウキクサ科 Lemnaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。冷水系の水草である。葉状体は卵状楕円形で長さ 7~10 mm、巾 2~4 mm。2 枚の葉の間に 2 枚の葉がつき、その根元が伸びた茎の先に、2 枚の葉がつく。群体状になる。花は、国内では開花が確認されていない。

2. 分布

国外では南アフリカを除く全世界に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

湧き水の冷水に生育するバイカモなどからみついて生育する。

4. 生育状況

清水町と富士宮市に自生する。富士宮市井の頭は、国内有数という折り紙をつけられた生育地だったが、バイカモを徹底的に掃除され、ほとんど見られなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

流水の中で、バイカモなどにしがみついて生きている植物なので、川掃除としてバイカモなどが除去される（71）と激減する。

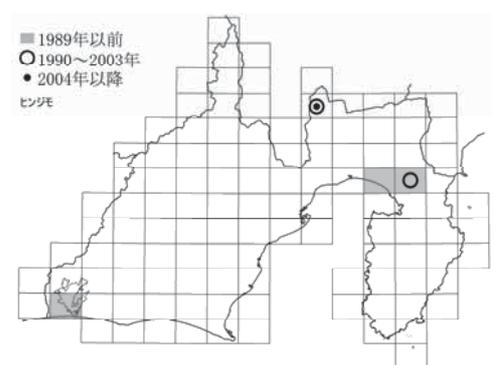
6. 保護対策

当該自治体、流水の管理者の了解をとって、しっかりとした保護計画が必要である。

(西口紀雄)



富士宮市 2002年8月23日 西口紀雄



アギナシ *Sagittaria aginashi* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①) 変更なし

オモダカ科 Alismataceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~80 cm。根茎は短縮肥厚して走出枝はない。秋になると葉腋に多数の小球芽を作る。葉は長い柄があり根元から叢生する。葉身は矢じり形で長さ 15~35 cm。裂片は線形または長披針形。側裂片の先端は尖り糸状。花期は 8~9 月。花茎の円錐花序に白色の花を輪生する。花は単性で、上部に雄花を、下部に雌花をつける。類似のオモダカは小球芽を作らず、走出枝を出す。また、側裂片の先端は尖るが、微鈍端である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

池沼や湿地に生育する。

4. 生育状況

前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) や湿地の乾燥化 (71) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の池沼や湿地の保全が必要である。

(湯浅保雄)



長野県 2019年8月9日 室伏幸一



マルミスブタ *Blyxa aubertii* Rich.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。スブタに似て葉は根生して株を作る。花期は 8~10 月。種子の両端に尾状突起がない。類似したスブタは種子に尾状突起がある。

2. 分布

国外ではアジア東部、インド、スリランカ、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

平地や丘陵地の水田に生育する。

4. 生育状況

旧修善寺町と旧新居町に生育していたが現存が確認できない。

5. 減少の主要因と脅威

湿田の消失 (15) や水質の悪化 (31) などにより減少した。

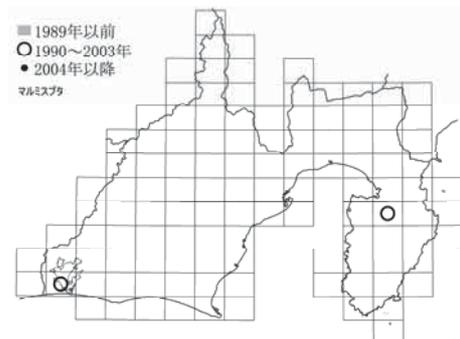
6. 保護対策

生育地の水田では耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 1998年11月8日 内藤宇佐彦



スプタ *Blyxa echinosperma* (C. B. Clarke) Hook. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。葉は根生して株を作り、線形で先は次第に細くなる。長さ10~30 cm。花期は8~10月。花弁は3枚で細長く白色である。種子は紡錘形で両端には長く伸びる尾状突起がある。

2. 分布

国外ではアジア東部、インド、スリランカ、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では東部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の水田やため池に生育する。

4. 生育状況

かつては水田雑草として多く見られた。西部では各地に点在しているが、最近ではなかなか見られない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の乾田化、耕地整理 (15) や農薬使用 (32) などにより減少している。

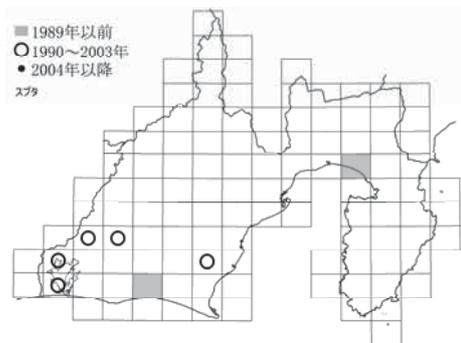
6. 保護対策

生育する水田の耕作形態の維持が重要と考える。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市 2000年8月20日 内藤宇佐彦



トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

浮遊性の多年草。雌雄同株。葉身は円心形、径4~7 cm。花期は8~10月。1~16 cmの柄がある雄の苞鞘のなかに4~6個の雄花ができる。花は1日花で1個ずつ開花する。雌の苞鞘の中には1個の雌花ができる。雄花の花弁は3個で白色、長さ7~15 mm。12個の雄蕊と3個の仮雄蕊がある。雌花の花弁は雄花と同じ。1本の雌蕊と6個の仮雄蕊がある。

2. 分布

国外ではアジア、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯から熱帯の栄養塩類の多い湖沼やため池、水田、水路など。

4. 生育状況

前回 (2004年) 調査では3ヶ所で確認されたが、今回の調査では確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) と水質の悪化 (31) が減少の主要因である。

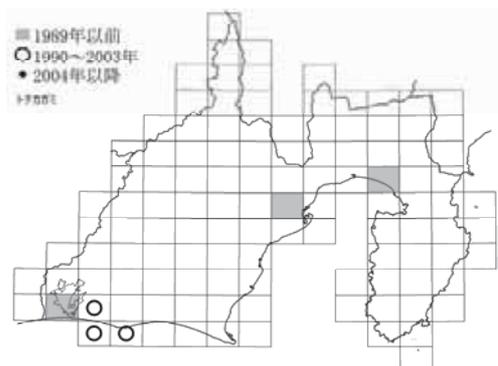
6. 保護対策

生育が確認されたら、環境の改善を行い保全すること。

(湯浅保雄)



©2020 T.Sugino
浜松市 1994年9月10日 杉野孝雄



サガミトリゲモ *Najas chinensis* N. Z. Wang

(=ヒロハトリゲモ)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。葉はトリゲモ類では最も幅広く、葉鞘は切形または円形である。花期は7~9月。種子には四~六角形の網目模様がある。

2. 分布

国外ではアジア東部に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

低地から丘陵地のため池や水田に生育する。

4. 生育状況

浜松市などに生育する。いずれも丘陵地や中山間部のきれいな水の流れ込む水田で、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

耕地整理や乾田化 (15) で生育地が減少している。水質悪化 (31) も脅威である。

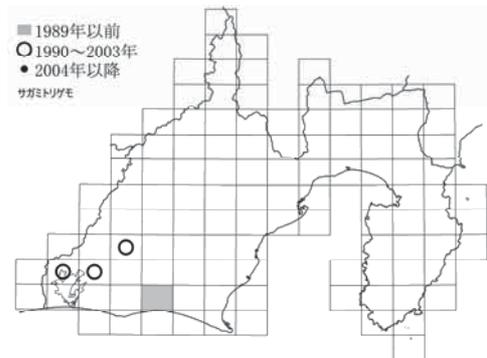
6. 保護対策

生育している水田などの保全と耕作形態維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2001年8月5日 内藤宇佐彦



イトトリゲモ *Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magnus

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。葉はトリゲモ類中最も細く、葉鞘は切形である。花期は6~9月。種子は2個並んでつき、表面には縦長の網目模様がある。

2. 分布

国外では東アジア、イタリア (帰化) に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地から丘陵地の池や水田に生育する。

4. 生育状況

中部と西部に点在する。平地ではきわめて少なくなり、中山間部の水田では比較的残っている所もある。

5. 減少の主要因と脅威

耕地整理、乾田化 (15) や水質悪化 (31) が減少の要因である。

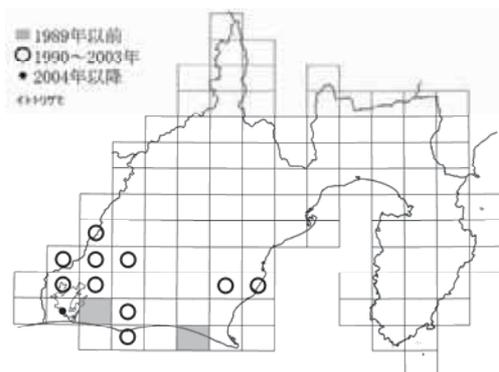
6. 保護対策

生育している池の保護や水田の耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2016年7月17日 内藤宇佐彦



トリゲモ *Najas minor* All.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草。茎は長さ20~50 cmでよく分枝する。葉は短く長さ1~2 cm。鋸歯が顕著で著しく反り返ることが多い。花期は7~10月。種子表面に縦長の網目模様がある。雄蕊の葯が一室である。外見ではオオトリゲモとの区別がつきにくく、同定には慎重を期したい。

2. 分布

国外では世界の温帯から熱帯に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の池や水路に生育する。

4. 生育状況

湖西市や浜松市などに生育する。産地は少なく、個体数も少ない。

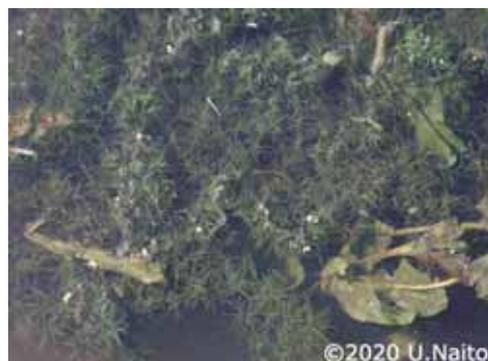
5. 減少の主要因と脅威

池の埋め立て(12)や水質悪化(31)が減少の要因である。

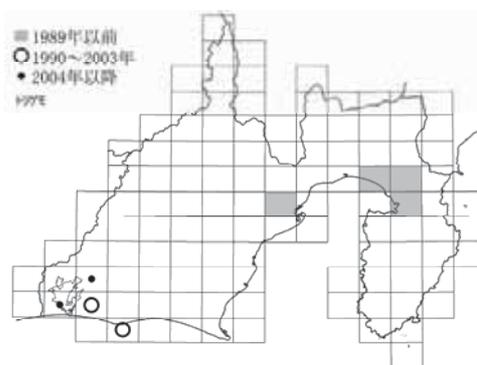
6. 保護対策

生育地である池や水路の保護や水質の保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2017年8月19日 内藤宇佐彦



ツツイトモ *Potamogeton pusillus* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。イトモに似ている。葉は無柄、線形で長さ2~5 cm。托葉の両側が合着して筒状になる。花期は6~8月。花は上下二段に分かれてつく。殖芽はごく細く、長さ1.5~2 cm。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と中部に分布する。

3. 生育環境

低地の池沼や河川、水路に生育する。

4. 生育状況

静岡市、浜松市、湖西市などに生育する。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て(12)や生育地の水質悪化(31)が減少の原因である。

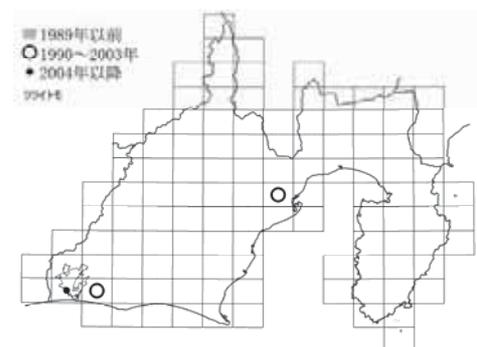
6. 保護対策

生育地の埋め立ての危険性があるのでその保護が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2014年7月21日 内藤宇佐彦



イトモ *Potamogeton bercholdii* Fieber

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。貧弱な地下茎が横走し一節おきに水中茎が伸びる。葉は線形、長さ2~6 cmで無柄、全縁で先端は鋭頭になる。花期は6~8月。花はかたまっつく。殖芽は大きく太い。ホソバミズヒキモの流水型や近似種間の雑種と似ているため、同定には注意が必要である。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の池沼や水路などに生育する。

4. 生育状況

静岡市と浜松市などに生育する。県内に広く分布していたが生育適地は減少している。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12)、河川改修 (13) や生育地の水質悪化 (31) などが減少の要因である。

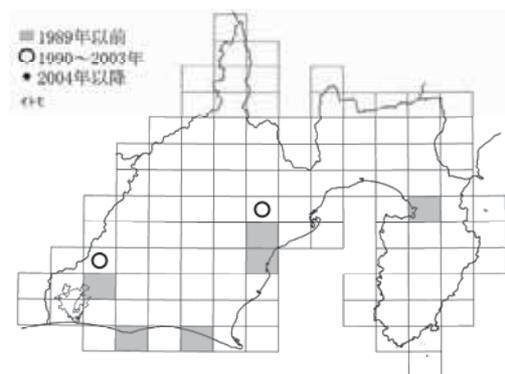
6. 保護対策

生育地の保全が重要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2002年10月4日 内藤宇佐彦



イトクズモ *Zannichellia palustris* L.

(=ミカズキイトモ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水性の一年草または越年草。葉は対生もしくは輪生状、無柄、線形で、先端は鋭頭で鋸歯はない。地中を這う地下茎から水中茎が伸びる。花期は夏。花は単性花で、雄花と雌花が同じ葉腋に並んでつく。果実は三日月形で背面に歯牙がある。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、沖縄に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

沿海地の池沼に生育する。

4. 生育状況

浜名湖岸の養魚場跡の池に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12) や、水質の悪化 (31) で減少した。

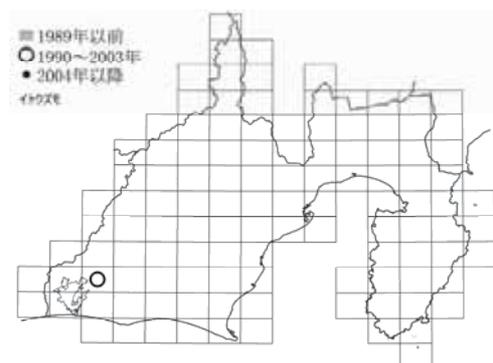
6. 保護対策

生育地の池の埋め立てを回避することや、ヨシなどほかの植物の除去が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2001年7月1日 内藤宇佐彦



カワツルモ *Ruppia maritima* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

カワツルモ科 Ruppiceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。地下茎が横走し、各節から水中茎が伸びる。葉は針状で、葉縁に鋸歯があり、基部は葉鞘となって茎を抱く。花期は春から秋。果実は左右非対称の卵球形で先は嘴状に突出する。

2. 分布

国外では広く世界に、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

海岸沿いの池沼や水たまりに生育する。

4. 生育状況

浜名湖岸に生育する。かつては海岸沿いの水湿地に広く生育していたが、ほとんどの産地が失われている。

5. 減少の主要因と脅威

池沼の埋め立て (12)、海岸の開発 (14) が減少の主要因である。

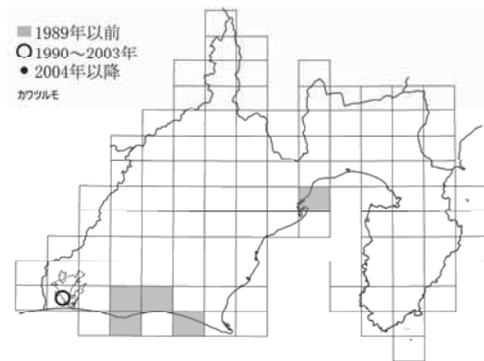
6. 保護対策

埋め立ての危険性があるため、生育地の保護が重要である。

(内藤宇佐彦)



湖西市 2001年10月20日 内藤宇佐彦



イズドコロ *Dioscorea izuensis* Akahori

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③⑤) 変更なし

ヤマノイモ科 Dioscoreaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

つる性の多年草。雌雄異株。根茎は多肉質で横に這う。茎の下部には長白毛があるが、上部はやや無毛。葉は互生して三角状卵形、先は長く尖り、基部は心形で両側は耳状に張り出す。縁には不揃いな小突起がある。薄い革質で乾くと黒色に変わる。花期は7~8月。雄花序、雌花序とも下垂する。蒴果は黒色を帯び、種子は全周に翼がある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県) に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆半島特産種。

3. 生育環境

暖帯の明るい林下あるいは林縁。

4. 生育状況

個体数は少ないが、伊豆半島の沿岸部に広く生育する。

5. 減少の主要因と脅威

雑木林の放置による常緑樹林化 (54) による光環境の悪化とシカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

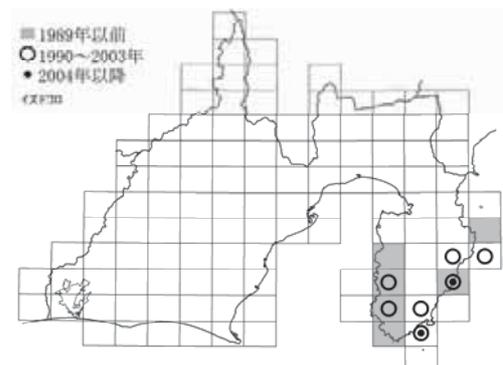
6. 保護対策

雑木林の常緑広葉樹林化を防ぎ、林床の光環境を最適な状態にすること。

(湯浅保雄)



下田市 2004年6月26日 内藤宇佐彦



キバナノアマナ *Gagea nakaiana* Kitag.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~20 cm。鱗茎は卵形で長さ 15 mm。根出葉は 1 個あり、長さ 15~35 cm、幅 5~10 mm。花期は 4 月。花は茎頂に 3~10 個、散形状につく。花柄は長さ 1~5 cm。苞は長短の 2 個があり披針形で長さ 2~8 cm。花被片は線状長楕円形で長さ 12~15 mm。初夏から休眠して地上部は消える。近縁種のヒメアマナは根出葉の幅が狭く、1~2 mm。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島、中国、ロシアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と東部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁や草地に生育する。

4. 生育状況

産地も少なく産量も少ない。開花株はあるが繁殖する株数よりも、採取などにより減少する株数の方が多く増加は望めない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。草地の減少 (16) とその植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

巡視により採取を防ぎたい。草地の保全と植生遷移を止める為の手入れが必要である。(宮崎一夫)



富士宮市 2011年4月18日 宮崎一夫



チャボホトトギス *Tricyrtis nana* Yatabe

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 2~15 cm。葉は接近して互生し倒皮針形、表には光沢があり著しい紫褐色斑がある。花期は 8~9 月。花柄は短くて毛を密生する。花は頂、または上葉脇に 1~2 花つき、上向き黄色で内面に小さな紫褐色の点がある。花は長さ 20~24 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州 (東海~近畿地方)、四国、九州に分布する。県内では中部と西部に分布しており、静岡県は、東限自生地である。

3. 生育環境

山地の林縁や道沿いの地上に生育する。

4. 生育状況

静岡市、藤枝市など県中部の山に多い。

5. 減少の主要因と脅威

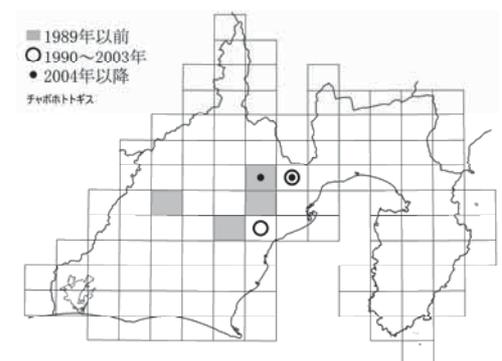
園芸採取 (41) が脅威である。大規模な森林伐採 (11) も減少の要因である。

6. 保護対策

花時以外はあまり目立たない。園芸採取により一時減少したが、近年回復してきている。自然の山の底力を信頼したい。(西口紀雄)



静岡市 2011年8月31日 西口紀雄



ナツエビネ *Calanthe puberula* Lindl. var. *reflexa* (Maxim.) M. Hiroe

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。偽鱗茎が連なり、基部に古い葉の繊維が残る。葉は狭長楕円形で長さ 10~30 cm、3~5 個あり縦皺が目立つ。花期は 7~8 月。葉の脇から花茎を立てて 10~20 個の花をつける。花は淡紫色で径 2 cm。萼片は長さ 15~20 mm、後方に強く反り返る。唇弁は広卵形で 3 深裂、舷部は平らである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山から山地の斜面の湿った林床に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量はやや多い。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) と森林伐採 (11) も脅威である。

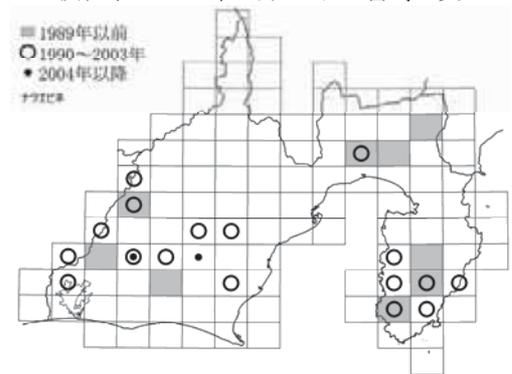
6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2016年8月13日 宮崎一夫



ナギラン *Cymbidium nagifolium* Masam.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~15 cm。偽球茎は紡錘形でその上に 1~3 個の葉をつける。葉は常緑の狭長楕円形で長さ 10~15 cm、革質で長柄があり先は尖り、縁に細鋸歯がある。花期は 6~7 月。花は花茎に 2~4 個を疎生し白色に褐紫色が混じる。萼片は狭倒披針形でよく平開する。側花弁は倒披針形で萼片よりやや短い。唇弁は倒卵状楕円形で浅く 3 裂し、側裂片は直立し中裂片の先は 3 角状に細くなる。近縁種のマヤランは花が似るが常緑の葉がない。

2. 分布

国外では韓国 (済州島) に、国内では本州 (関東南部以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯下位の照葉樹林下でやや乾いたところに生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は少ない。生育状況は各産地ともに群生することなく小苗も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

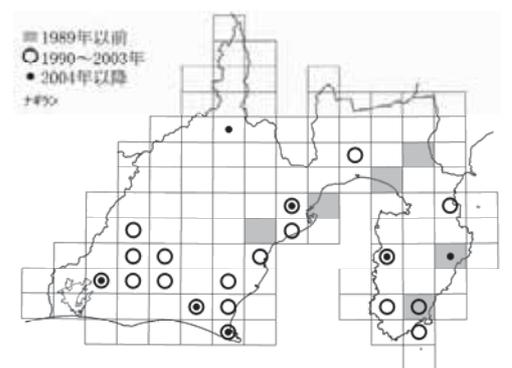
園芸採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) や植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



牧之原市相良町 2000年7月23日 宮崎一夫



コアツモリソウ *Cypripedium debile* Rchb. f.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は長さ2.5~5 cm、2個が対生し3脈が目立ち縁は波を打つ。花期は5~6月。花は径約2 cm、葉の間から出る細長い花柄の先につき垂れ下る。花柄に広線状の包葉が1個ある。萼片と側花弁は淡黄緑色で長さ1~1.5 cm。唇弁は袋状で暗紅紫色の条斑がある。果期になると果柄は立ち上がる。近縁種のクマガイソウは花も葉もより大きい。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地帯で深山の常緑針葉樹林下に生育する。植林の林床にも残存し、尾根から斜面にかけて生育している。

4. 生育状況

産地は西部の山地で、産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

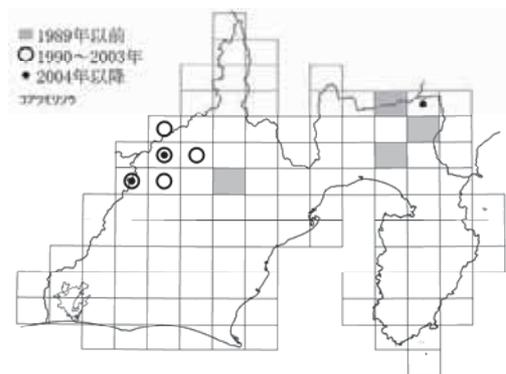
園芸目的の採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保全と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。森林伐採の際には皆伐しないで択伐する。(宮崎一夫)



浜松市 2008年5月4日 宮崎一夫



クマガイソウ *Cypripedium japonicum* Thunb.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。地下茎は太く硬く節があり水平に伸びる。茎は直立する。茎の上部の葉は扇円形で2個あり径10~20 cm、茎頂に対生状につき、放射状に多数の皺がある。花期は4~5月。葉の間から花柄を伸ばし1個の花をつける。花は約10 cm。萼と側花弁は披針形で長さ約5 cm、淡黄緑色で開く。唇弁は帯紅黄白色の皺のある袋状で上面に開口部がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では低山を中心に広範囲に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の平地から山地までの竹林や植林及び落葉・常緑広葉樹林の林床など多様な環境に生育する。

4. 生育状況

産地も株数も多く、群生している所もあり開花株も多く見られる。生育地は竹林や落葉広葉樹林下では少なく、今ではほとんどが植林下に残存している。

5. 減少の主要因と脅威

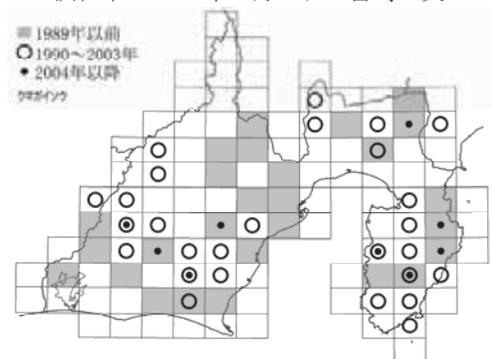
園芸目的の採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

野生で見られなくなる前に、行政による生育地の保護管理が望まれる。生育していた記録がある潜在的な生育地を保全する。(宮崎一夫)



浜松市 2005年5月8日 宮崎一夫



イチヨウラン *Dactylostaliopsis ringens* Rchb. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。葉は地表近くに1個あり、肉厚な卵円形で長さ2~5 cm。花期は5~7月。花は直立した花茎の先に1個つき長さ2cm。苞は楕円形で長さ2~3 mm。萼片と側花弁は淡緑色で紫色の斑点があり、狭長披針形で長さ2~2.5 cm。唇弁は3裂して、側裂片は紅紫色を帯びて、中裂片は基部がくびれた扇形で長さ7 mm。近縁種のコイチヨウランは花が小さく長さ5 mmで数個つける。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部と中部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

低山から亜高山までの広い範囲で、植林や針葉樹林の湿り気がある林床に生育する。

4. 生育状況

産地は北部の山地に多い。産量は多くない。群生することは少ない。

5. 減少の主要因と脅威

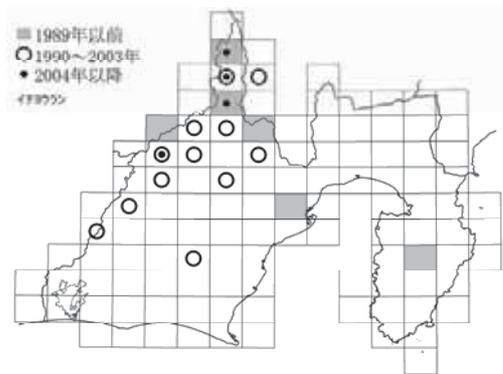
園芸目的の採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

森林伐採の際には皆伐しない。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2011年7月18日 山崎由晴



ハルザキヤツシロラン *Gastrodia nipponica* (Honda) Tuyama

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。花時の高さ2~6 cm。花期は4~5月。花序あたり1~4個の花をつける。萼は三角状筒形で長さ2 cm、色が帯紫暗褐色で周辺の落ち葉や、土壌の色と同化。萼筒の先は開き、中に側花弁と唇弁が見える。蒴果は長さ2.5 cm。花後の6月には果柄が50 cmほどまで伸び、淡褐色で直立している。近縁種に10月に開花するアキザキヤツシロランとクロヤツシロランがある。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部と中部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯のシイの巨樹林下に多いが、社寺林や植林の林床で落葉が堆積した薄暗い所に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に多く、近年産地産量は増えているが、年により発生に変動がある。県内各地に生育していると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

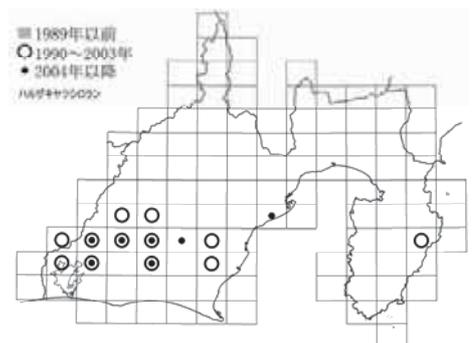
共生菌がなくては生育しない植物なので、菌類が生育できる環境がなくなる(11)ことが脅威である。

6. 保護対策

シイの巨樹を伐採しないことや社寺林を保全することで、菌類が生育できる環境を維持する。(宮崎一夫)



浜松市 2017年5月14日 宮崎一夫



サギソウ *Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~40 cm。地中の球茎から地上茎を出す。葉は広線形で茎の下部に数個つき長さ 5~10 cm。花期は 7~8 月。花は白色で径約 3 cm、茎頂に数個つく。萼片は緑色で長さ 2~2.5 cm。側花弁と唇弁は白色。唇弁は 3 深裂して、扇形の側裂片の縁は糸状に細裂する。距は線形で長さ 3~4 cm、先端にかけて太くなり下垂する。近縁種のオオミズトンボやミズチドリは総状花序をなす。

2. 分布

国外ではロシア、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部と伊豆に分布する。

3. 生育環境

日当たりがよく貧栄養の湧水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は少ない。産量が多い。無性株も多い。乾燥化と植生遷移により衰退した産地もある。園芸放棄と思われる斑入りの個体も見受ける。

5. 減少の主要因と脅威

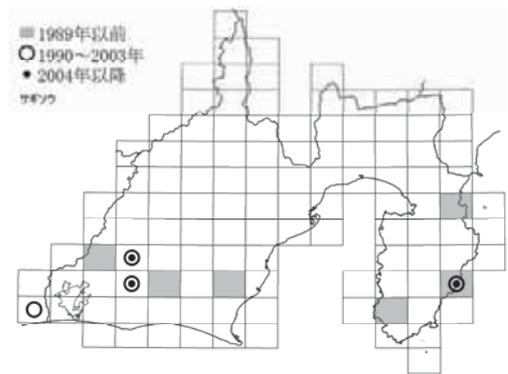
園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。園芸放棄は遺伝子を攪乱する (71) 可能性がある。

6. 保護対策

湿地の代表的な植物であり、草取りや草刈りをして植生遷移の進行を止める。
(宮崎一夫)



浜松市 2016年7月18日 宮崎一夫



ミズトンボ *Habenaria sagittifera* Rchb. f.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。葉は下部に数個あり線形で長さ 5~20 cm、基部は茎を抱く。花期は 8~9 月。花は淡黄緑色で長さ 1~1.5 cm、茎の上部に多数つける。萼片は円心形で長さ 4 mm。唇弁は十字状、各裂片は線形で細く、長さ 20 mm。側裂片は斜上に湾曲する。距は長さ 1.5 cm。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の低地から低山の日光当たりのよい湿地や耕作放棄水田に生育する。

4. 生育状況

浜北区と稲取に生育する。産地は少ない。産量の一部で群生する。放棄水田では遷移により年々株数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) と園芸採取 (41) が主要因である。

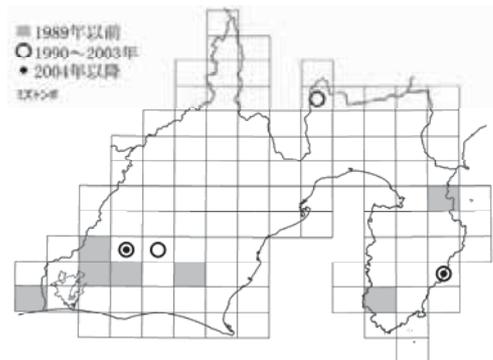
6. 保護対策

園芸採取や踏圧を防ぐために、生育地の立ち入りを禁止することが重要である。産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年9月17日 宮崎一夫



ムカゴソウ *Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) J. Vuijk

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-②) 変更コード 9

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー なし：環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~45 cm。楕円形の球状の根から茎が出る。珠芽は地上の茎の腋にできる。葉は中部に 3~5 個が互生し線形で長さ 8~20 cm。花期は 7~8 月。花は淡緑色で穂状花序に密に多数つける。萼片 2~2.5 mm。唇弁は舌状で 3 中裂する。側裂片は線状で長く前向きで、中裂片は小突起状である。距はない。環境省の対称種であり、産地も産量も少ないので、今回リストアップした。

2. 分布

国外ではアジア、ニューギニアに、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

温帯と暖帯の湿原、沼地や湿った林縁の草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に東部に多く、中部と西部にも産地の記録がある。今回の調査では 1ヶ所で確認されただけである。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。乾燥化 (71) も脅威である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、植生遷移を抑制するなどの生育環境を維持管理することが重要である。(宮崎一夫)



東伊豆町 2012年8月31日 加藤 徹



カゲロウラン *Zeuxine agyokuana* Fukuy.

(=オオスミキヌラン)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 類 (VU) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 5~20 cm。根茎は太く這う。茎は直立する。葉は常緑で長さ 3~5 cm、濃緑色でピロッド状の光沢があり縁は波打つ。花期は 9~10 月。花は淡黄白色で数個つける。側萼片は披針形で内側に巻き横に平開する。唇弁は長卵形で先端は 2 裂しない。近縁種ヤクシマアカシユスランの側萼片は卵形で内側に巻かない。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部、中部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

丘陵地から低山のアカマツ林や常緑樹林下に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には記録がなく、近年確認された。産量は 100 株以下の産地が多い。産地は県内に広く点在する。開花する株の割合も多い。

5. 減少の主要因と脅威

土地造成 (23) や森林伐採 (11) などの開発行為が主要因である。マニアによる採取 (41) も多少は脅威となる。

6. 保護対策

山林の開発を回避する。森林伐採の際には、皆伐しないで年月を費やして少しずつ択伐する。(宮崎一夫)



浜松市 1994年10月29日 宮崎一夫

